今後の地域のあり方を考えるワークショップ

運営の負担軽減、活動のスリム化
役員の高齢化、なり手不足は年々深刻に

退会者対策
増加する集合住宅や若い世代の未加入
近年は高齢者の退会も増えています

新たな活動の担い手確保
高齢者の就業率上昇、ボランティア募集等
今後は新たな参加の仕組みも必要

ワークショップ（例）

〔開催形式〕

対象：自治会・町内会（単会）、地区連合、地域運営組織など
回数：1 回～
1 回の所要時間の目安：2 時間
講座形式：前半は講義（情報提供）、後半は演習（意見交換など）

〔開催例〕 開催回数2回の場合

第1回
講義：地域課題に即した参考情報の提供
演習：地域の現状や課題、今後について思いや意見を交わす

第2回
講義：課題解決の参考となる事例、改善案（例）の紹介
演習：（1）今後の取組みなどについて意見交換、取組みの検討など
（2）課題に即したワーク （例）訴求力のある広報作成など

〔成功のカギ〕

参加者を会長や長老の役員、高齢男性だけでなく、若い世代や女性に声をかけ参加してもらうと改革が進みやすくなります。中高生や移住者など多様な参加を呼びかけ、活性化する地域も少なくありません。

改革へのきっかけづくり

人口減少や少子高齢化に加えて、役員の高齢化やなり手、活動の担い手不足等、様々な課題を抱える自治会などの地域活動団体。将来へ不安を抱きながらも改革は進まないのが現状です。

ワークショップは今、悩んでいる地域に直面する課題に向き合う場を提供。動き出すきっかけを作っていくものです。